平成２９年度　倉敷市生物多様性審議会　第１回会議　議事録（要旨）

１　日時

平成３０年２月１５日　１０時００分～１２時００分

２　場所

倉敷市役所５階　５０２会議室

３　出席者

【委員】１１名

青江委員、井上委員、片岡委員、河邉委員、木村委員、小橋委員、小林委員、阪田委員、洲脇委員、藤原委員、山口委員

【事務局】７名

伊東市長

環境リサイクル局　黒田局長

環境政策部　清水部長、佐藤次長

環境政策課　納所課長補佐

自然保護係　岡本係長、多田技師

環境学習センター　渡邉所長

４　欠席者

【委員】１名

清水委員

５　傍聴者　なし

６　報道関係　なし

７　次第

１　開会・あいさつ

２　委員委嘱

３　委員の紹介

４　会長・副会長選出

５　議事

（１）倉敷市生物多様性審議会について

（2）倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について

6　その他

7　閉会

7　添付資料

資料１　委員名簿

資料２　倉敷市生物多様性地域戦略（実施事業計画表）

資料３　倉敷市生物多様性地域戦略（説明スライド）

1　議事要旨

事務局	（議事（１）倉敷市生物多様性審議会について説明）
委員	倉敷市生物多様性推進委員会が、この度、審議会になった経緯を教えてほしい。
事務局	平成２９年６月に審議会条例が議会で可決され、これに伴い推進委員会が審議会となった。
会長	推進委員会の時も倉敷市の政策に対して意見してきたが、審議会になったことで、より正式な意見になるということか。
事務局	審議会になったことで、議事内容を情報公開するなど、市長の付属機関として運営していくことになる。
会長	以前は倉敷市自然環境保全審議会があり、その後、いくつかの審議会が集まって倉敷市環境審議会になった。本審議会では、倉敷市第二次環境基本計画のうち、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する項目を担って審議していく。
事務局	（議事（２）倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について説明）
委員	基本目標の中に子どもたちへの環境教育の充実が挙げられている。岡山市内では学校からの出前講座の依頼件数が伸びているが、倉敷市では依頼件数が少ない。倉敷市における教育委員会との関係や学校現場での環境学習など、そのあたりの状況を教えてほしい。
会長	倉敷市の学校からの出前講座の要望が少ないということか。
委員	倉敷市の第二福田小学校には環境教育に熱心な先生がいるが、市内全体には環境教育が広がっていない印象がある。教育委員会や学校との連携事例があれば教えてほしい。
事務局	これまでは環境学習センターや自然史博物館友の会が環境教育に取り組んでいるが、まだまだ十分とは言えない。そこで環境政策課では今年度初の取り組みとして、公民館と連携して地域の小学生を対象にしたダルマガ

	エルの観察会を実施した。他にも水島公民館やライフパークとも連携しながら地域での講座を実施した。学校現場については、倉敷商業高校や玉島商業高校と連携を取りつつあるが、小学校との連携はまだない。これからどのように学校と連携を進めていくか模索しているところである。
会長	他の市町村での成功事例を知っている方はいらっしゃいますか。
委員	私は平成１４年頃からスイゲンゼニタナゴなどの保全啓発のために学校での環境教育に取り組んでいる。ゆとり教育が行われていた頃は先生が地域の話題を探していたこともあり、環境教育の要望があった。しかし、学校の教育方針が変わってからは、学校に出向いての環境教育が難しくなった。これからは教科との関連性がないと学校が受け入れにくいのではないか。
会長	国の教育方針によって変わってしまう部分もあるが、それでも学校で環境教育をしてほしいという思いもある。
委員	岡山県自然保護センターには多くの子どもが遠足で訪れる。最近の子どもたちは虫を捕ったり、草原や水の中に入る体験をしたことがない。そのため、子どもの中には虫に触ることができない子もいるが、半日も遊べば虫に触れるようになる。子どもの情操教育には実際の生き物に触れることが必要であり、インパクトのある体験型の遠足は子ども達が楽しんで参加できる。そういった情報が先生間の口コミで広がれば、他の小学校からも要望が来るようになるので、体験型の遠足プランを用意して学校に働きかけてはどうだろうか。
委員	ちょうど今、学習指導要領・幼稚園教育要領が変わる時期を迎えており、幼児教育では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の１つに「自然との関わり生命尊重」が目標に挙げられている。学習指導要領においても、体験活動を通して子どもの思考力・判断力などの育成といった教育方針をさらに重視していくよう示されているので、取り組みを実施するなら今がチャンス。保幼小連携に有効な幼児教育と小学校教育を通じたプログラムを提供できれば、教育現場で活用できると思う。今の若い先生は自身の自然体験が不足しており、子どもにどう教えてよいか分からないので、自然体験の年間プランや指導案などがあれば園や学校現場に入っていくチャンスはあると思う。

会長	倉敷市では小中学校に体験学習のプログラム一覧のようなものを配っているのか。
事務局	小学校の校長会で、環境学習センターのプログラムの紹介をしている。遠足型の自然体験として、工場見学、水素自動車の見学、水質検査の体験などがある。また、環境学習センターのエコライブラリーで本の紹介企画も実施した。
会長	機会のあるごとに、小学校に周知することが必要だと思う。
委員	私は環境学習センターからの派遣を受けて、学校での出前講座を実施している。環境学習センターが窓口となって色々な分野の講師を紹介すれば、先生方も利用しやすいのではないか。
委員	温暖化対策の出前講座は小学５年生の総合的な学習の時間での利用が多い。生物多様性の分野は講座としてのプログラム化が進んでいないように思えるので、先生方に見える化していくのが良い。
会長	広報は大事なので、市は分かりやすい形で学校に紹介できると良い。
委員	話題は変わるが、倉敷市内の干潟について、生物多様性地域戦略の中でもう少し注目したほうが良い。児島、水島、高梁川河口の干潟は瀬戸内海の中でも注目地域の１つだと思う。今残されている干潟の生物多様性を評価していくことが重要である。
委員	倉敷の自然をまもる会では高梁川河口の干潟で調査をして２年目になり、その時の記録は残していくつもりである。学校は先生の姿勢によって環境学習への取り組み方が違い、先生によっては自然観察の実施が難しい場合もあるので、まずは先生の意識を変えることも必要。希少な生き物がいる干潟として児島の高州と水島沖の園州が有名であり、ここには他地域では見られなくなった生物が今なお多く生息し、国内から注目を集めている。しかし、高州では瀬戸大橋の工事の際に多量の海砂を採取したことで海底の地形が変わっている場所もあり、将来的な影響を心配している。また、大畠から鷲羽山にかけては港が整備され、岩場だったところが海水浴場に整備された。今は干潟の生き物がそこに定着しつつあるが、潮の流れによって砂浜が衰退していくため、波止めが次々と作られていくのが心配。

	公共工事の際にはそのようなことをきちんと考えてほしいし、工事の内容を情報公開するようになれば市民も意見が言える。
委員	自然観察そのものが、藻場や干潟の自然の記録を残すことにつながっている。倉敷市も関わって、市内の自然の記録を残すことが大事。
委員	倉敷の自然の変化を見守っていく必要がある中で、何を基準に評価するのか分からない状態になっている。私たちは岡山県野生生物目録や岡山県レッドデータブックを基準にしており、これらは近々改訂される予定。しかし、倉敷市ではまとまった内容の生物目録が24年以上も更新されていないので、今の状況が分かるような資料を作ってほしい。自然史博物館には多くの資料があり、いろいろな市民グループもあるので、倉敷市の現在の生物目録を作れたらと思う。
会長	倉敷市の過去の生物の記録や、局所的な地域の記録はあるが、倉敷市全体を網羅したデータを定期的に取っておかないと、気付いた時には生物がいなくなっていたという事も起こる。市は予算を付けて、市民団体の協力を得ながら取り組んだ方が良い。
委員	生物多様性地域戦略の 2020 年までの目標に、多様性が守られている事などが挙げられているが、この評価について今から取り組んでおかないと目標年までに間に合わないのではないか。また、倉敷市の政策体制がこれまでどう進んできて、これからどう進めていくのかも評価する必要がある。また、生物多様性保全に関する条例を倉敷市で制定してはどうか。倉敷は過去に意欲的な自然環境保全条例を作ったが、政策の体系を明確にするために、新たな条例を制定することを進言したい。
会長	農業の面から、何か話題はありますか。
委員	食の安心安全は子どもたちにとって大切なことだが、これまで教育の中で目を向けられてこなかった。農協では子どもたちに安心安全なものを食べてもらうための興味づけとしてキッズクラブを立ち上げ、子ども達にイチジクの採取からジャムを作っての販売までを体験してもらっている。女性や子どもの立場からは大きな取り組みはできないが、体験学習に参加した子ども達は目を輝かせているので、足元を見つめた子ども達の教育から進めたい。

会長	幼児の好奇心や記憶力は凄いので、幼児期の教育は重要。重井薬用植物園でも環境教育に取り組んでいると思うが、何か意見はありますか。
委員	今年、瀬戸大橋が30周年を迎える。瀬戸大橋は倉敷市の環境保全にとって大きな出来事であり、工事の際に湿地の希少植物の保護移植などもあった。30周年を機に、瀬戸大橋の建設が倉敷市の生物多様性にどのような影響を与えたのかを評価してはどうだろうか。また、環境教育は指導者が中心となって進めているが、地元で農業をしている高齢者も良い人材となる。農業を通じた体験を孫に語ることで環境教育に繋がる部分もあるので、地元の高齢者の活用を考えてはどうか。
委員	農業、漁業、林業に関わった高齢者の話を積極的に聞くことで、昔の自然がどうだったのかを知る事ができ、生物多様性を考えるうえでの指針になるのではないか。
委員	水島コンビナートを作る前の大正時代などのアマモ場の資料は、岡山県の水産試験場にある。それ以外の資料も水産試験場にあると思うが、このような過去の資料は貴重なものだと思う。
会長	過去の資料と併せて、現在の資料もまとめていけたらと思う。
委員	人づくりや環境教育にしても、達成のためには予算が必要不可欠。倉敷市の事業計画を見ると、環境政策課が担当する業務に予算なしというのが多い。今後、審議会の意見を実現していくなら、予算取りに努めてほしい。
会長	本気で取り組むには予算が必要だが、そのためには審議会委員からの後押しも必要だと思うので、我々でサポートしていきたい。県の自然保護センターのように子どもが自由に遊べる場所があればよいと思うが、個々の提案では市も援助が難しいと思うので、関係団体がまとまって市に提案していければと思う。 以上

議事録承認

会　　長

河邊誠一郎

署名委員

青江　洋